



腫瘍や脳卒中

原因でも発症

器質性うつ病

誰だって、頭痛や目まい、手足の痺れでもあれば、「さては、頭に病気でしょ？」などと心配になるものだ。で、頭の検査を受けるかもしれない。だが、気分が落ち込む。なんとなく不安だ。よく眠れない、といったこころの症状だけの場合はどうだろうか？

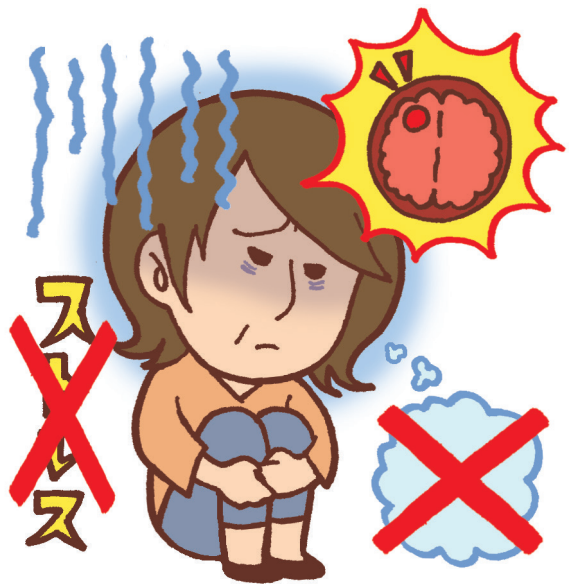
47歳のA子さん。最近、ずっと調子が悪い。体がだるい。やる気が起きない。仕事に行くのがつらい。朝早く、目が覚めて眠れない。頭がボーっとする。イライラしては周りに当たる。で、自分を責める。と、話を聞いただけで、医者なら誰でも「うつ病」を疑う症状だ。心療内科か精神科へ紹介するだろう。だが、A子

さんには、きっかけになる悩みもストレスもないという。で、念のため、頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査をしてみた。な、なんと。左前頭部に約7センチ大の脳腫瘍ができていた。

実は、うつ病というのは、つらい出来事や環境の変化などのストレスだけが原因で起きるものではない。脳腫瘍や脳卒中など、頭の病気が原因で起きることもある。これらを、「器質性うつ病」と呼んでいる。で、脳の病気が起きてから、20〜40%のひとにうつ病が発症すると言われている。頭の病気をしたことでストレスを感じてしまうこともあるだろう。が、腫瘍や脳卒中そのものが、感情をコントロールする前頭葉の働きを変化させたことが原因かもしれない。

だから、「うつ病のひとは、頭の精密検査も必要だ」と言う医者もいる。だが、口の悪い悪友などは、「そやって、脳外科医者といつのは、ひとを不安にさせては頭の検査をしたがる」と唾うのた。でも、一度でもA子さんのようなケースを経験してみる。検査もしないで頭の患者さんを診ている医者こそ、そのセンスが疑われると言いたくなる。

（石黒修三 いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身）



イラスト・野畑桃花